

営農ウィークリーNEWS

向島地域 酒造好適米「祝」

田植えイベントが開催されました

酒造好適米

「祝」

栽培圃場

JAグループ京都

6月3日、向島地域のほ場にて酒造好適米「祝」の田植えイベントが開催されました。この企画は、「京都酒林会」と名づけられ、地元の酒米生産者の山田ファーム・山田豪男さんと中嶋農園・中嶋直己さんが酒造メーカーの株式会社増田徳兵衛商店と株式会社城陽酒造と連掲して日本酒を楽しむ会で、当日は一般公募の中から男女51名が参加されました。田植え終了後は地元で栽培された野菜や日本酒がふるまわれました。秋には稲刈りなど収穫体験イベントが計画されており、収穫した祝米は、来年2月にオリジナルの日本酒になる予定です。



龍谷大学政策学部による地域社会の課題解決に取り組む実践型プログラム「Ryu-SEI GAP」として伏見区の地産地消の促進を目的に発足した学生グループ「伏見わっしょい新党」のメンバーも盛り上げてくれました。

日本酒の魅力を世界に発信する一般社団法人ミス日本酒が主催した「2016ミス日本酒（MissSAKE）」で3代目グランプリに輝いた田中沙百合さんも参加されました。

ジャンボズッキーニ発見

TAC information



当JA西南部経済センターに、強大化したズッキーニが持ち込まれました。少し収穫が遅れただけで、ここまで大きくなったそうです。今回持ち込まれたものは、長さ約41cm、直径10cmのジャンボズッキーニ。

荒木技術顧問によると、収穫せずに置いておくと、さらに大きくなるそうです。

JA京都中央 平成28年6月14日
No.297 作成者 島 裕加里

水稻

いもち病に注意しましょう！

◆いもち病とは・・・

〔多発時期〕 苗いもち；育苗後期，葉いもち；6～8月，穂いもち；8～10月（南日本の早期栽培では葉いもち；5～7月，穂いもち；7月）

〔伝染源〕 被害残渣，種子

〔伝染様式〕 種子伝染，空気伝染

〔発生部位〕 葉，穂首，枝梗，籾，穂

〔発病適温〕 14～30℃（最適 25℃）

〔湿度条件〕 降雨あるいは露によって長時間植物体が濡れ続ける場合は感染に好適。湿度が高いと病斑の進展，胞子の形成量は高まる

●病原菌の生活サイクルとその変動

〈基本的な生活サイクル〉

▽第一次伝染源は種子伝染した菌と，育苗施設や本田周辺で積み上げたり，屋内に置いたりした稲わらや籾がらで越冬していた菌の可能性があります。

▽病原菌の胞子が空気伝染し，適度な温度と長時間の湿潤状態が続いたときに胞子が発芽してイネに侵入します。病原菌が侵入してから発病するまでの潜伏期間は葉では約7日間ですが，穂では，籾で約1週間，枝梗や穂首で10～15日間を要します。

▽病斑ができると，そこで20日以上にわたって胞子がつくられ，二次伝染源となります。

〈条件による生活サイクルの変動〉

▽南日本型発生；温暖な西南暖地の普通期栽培では，6～7月に葉いもちが発生してから，真夏に一度停滞期があり，秋の出穂期になってから穂いもちが発生します。したがって，この地域では，まず葉いもちが激発しないような管理を行なったうえで，穂いもちの防除を行なうことになります。



平成28年6月9日大阪管区気象台発表「近畿地方1か月予報」

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

◆向こう1か月の天候の見通し【予報のポイント】

○期間の前半は南からの暖かい空気に覆われやすく、気温は高い見込みです。

○太平洋高気圧の縁に沿って湿った空気が入りやすく、降水量は平年並か多いでしょう。

●山間部地域や日当たりの悪い圃場は、「オリゼメート粒剤」などで、防除してください。